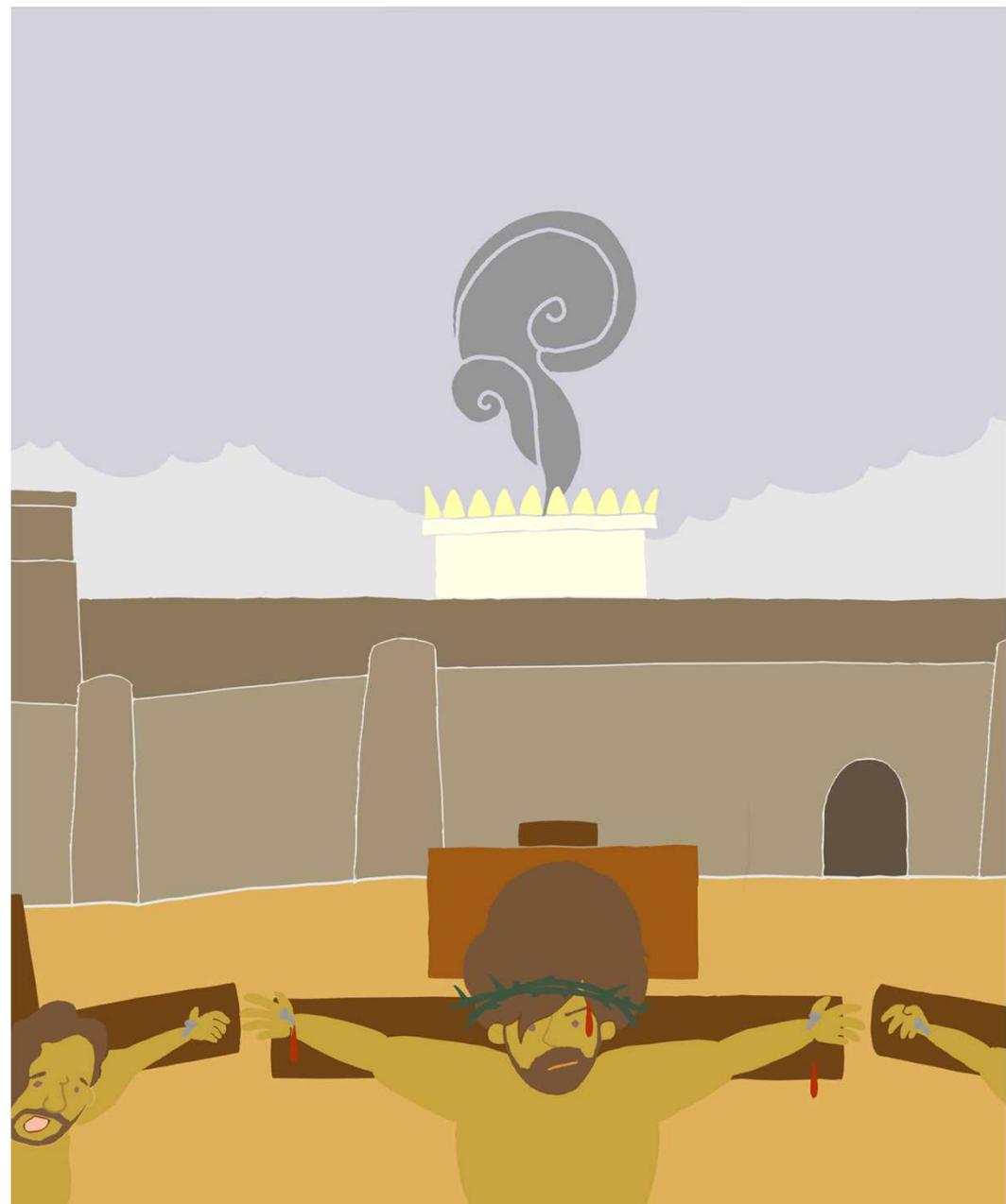


10

ざっくり 聖書入門

「メシア」 ～後篇～

十字架・葬り・復活



【聖書入門 全12回のアウトライン♪】

■旧約聖書■

- ①アダム
- ②ノア
- ③アブラハム
- ④ヤコブ
- ⑤モーセ・前編
- ⑥モーセ・後編
- ⑦ダビデ
- ⑧エレミヤ(預言者たち)

■新約聖書■

- ⑨メシア・前編
- ⑩メシア・後編
- ⑪使徒たち
- ⑫今を生きる私たち

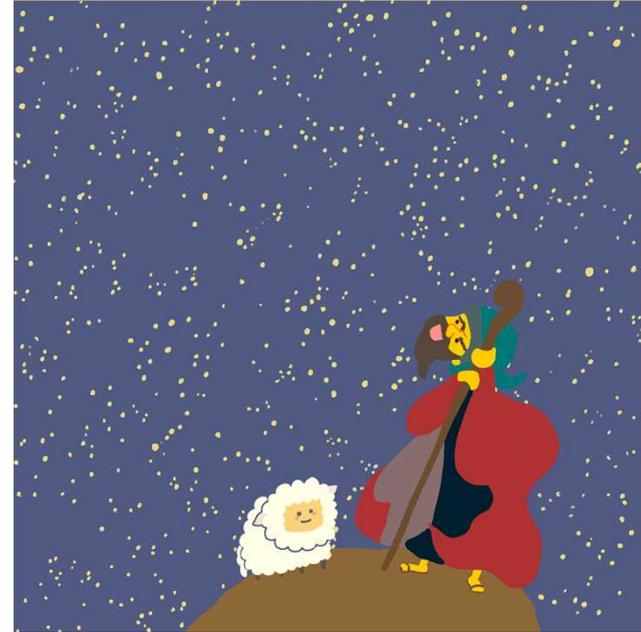
【今日のアウトライン】

- 0. ふりかえり
- I. ペテロの信仰告白
- II. 山上の変容
- III. エルサレム入城
最後の晩餐・逮捕・裁判
- IV. 十字架と葬りと復活
- V. まとめと適用
福音を信じた者として



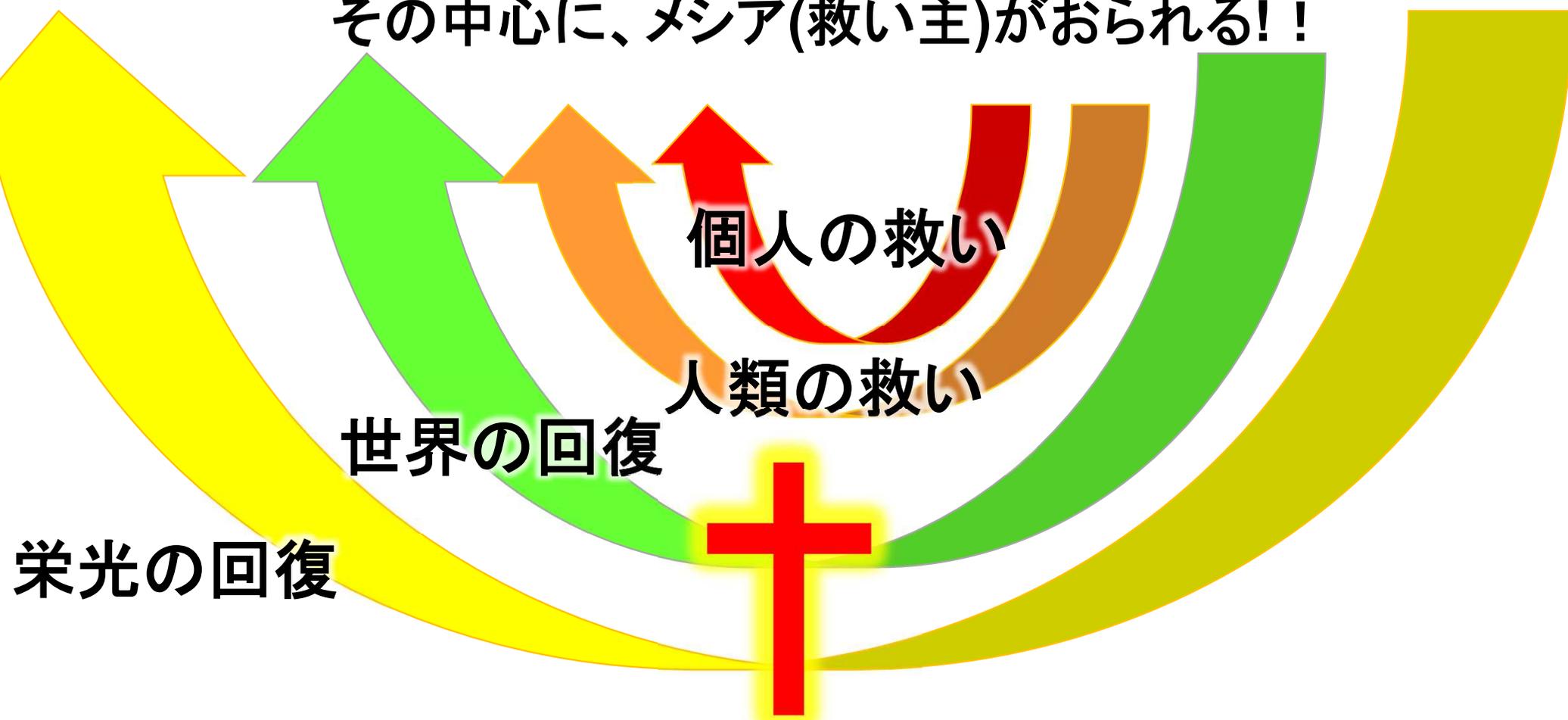


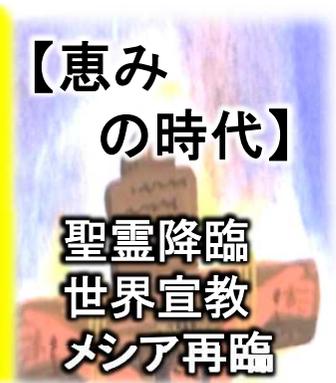
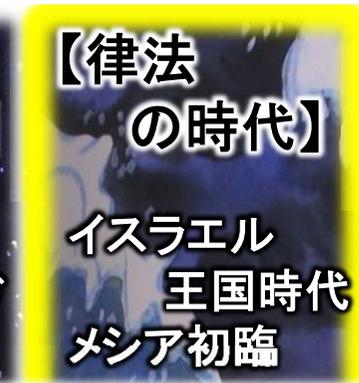
ふりかえり



聖書の最大のテーマは、「神の栄光の回復」

世界に神の栄光が回復される時、すべて回復される。
その中心に、メシア(救い主)がおられる!!





【恵みの時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの
塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

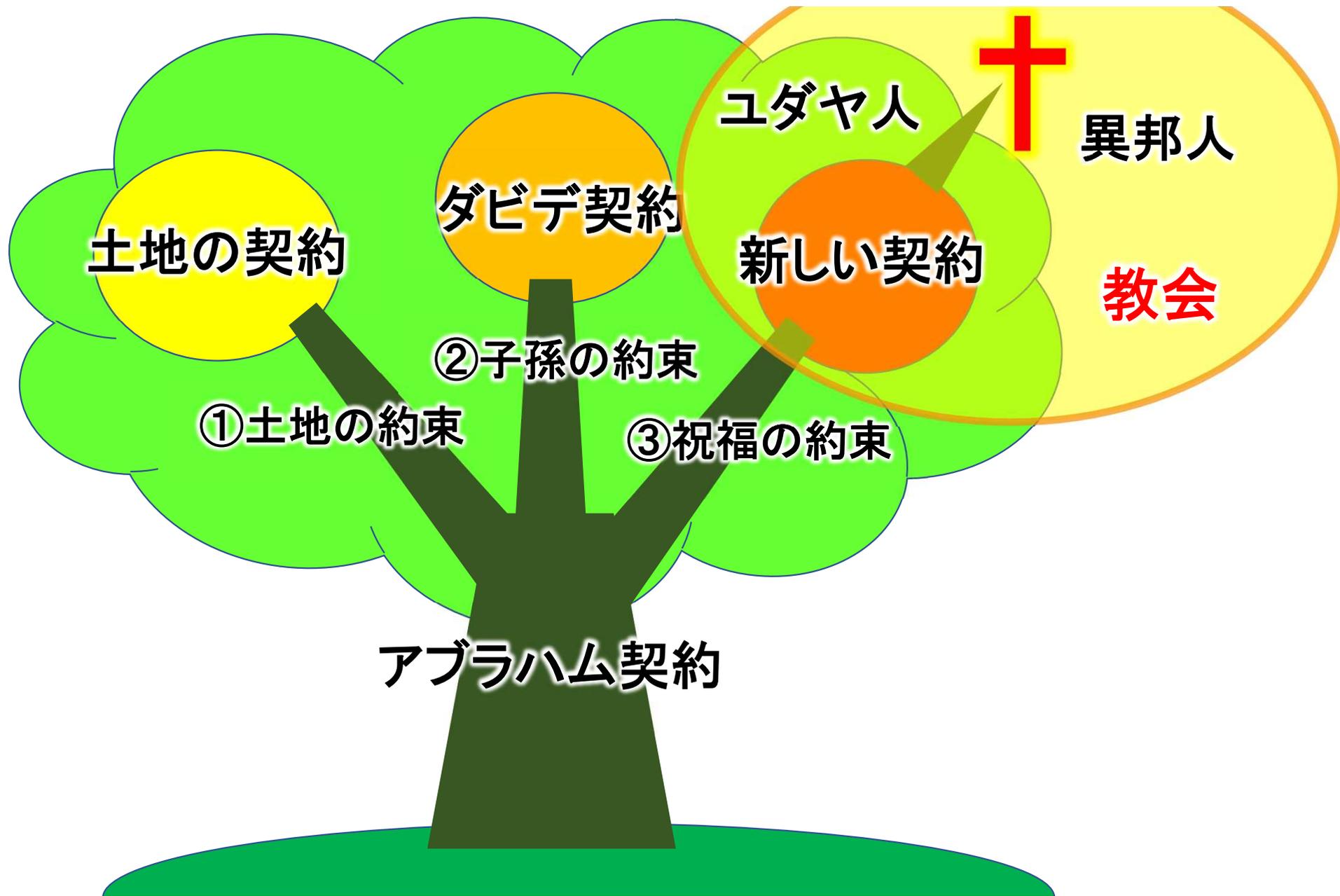
⑧新しい契約

メシアの公生涯は、
まだ、律法の時代!!

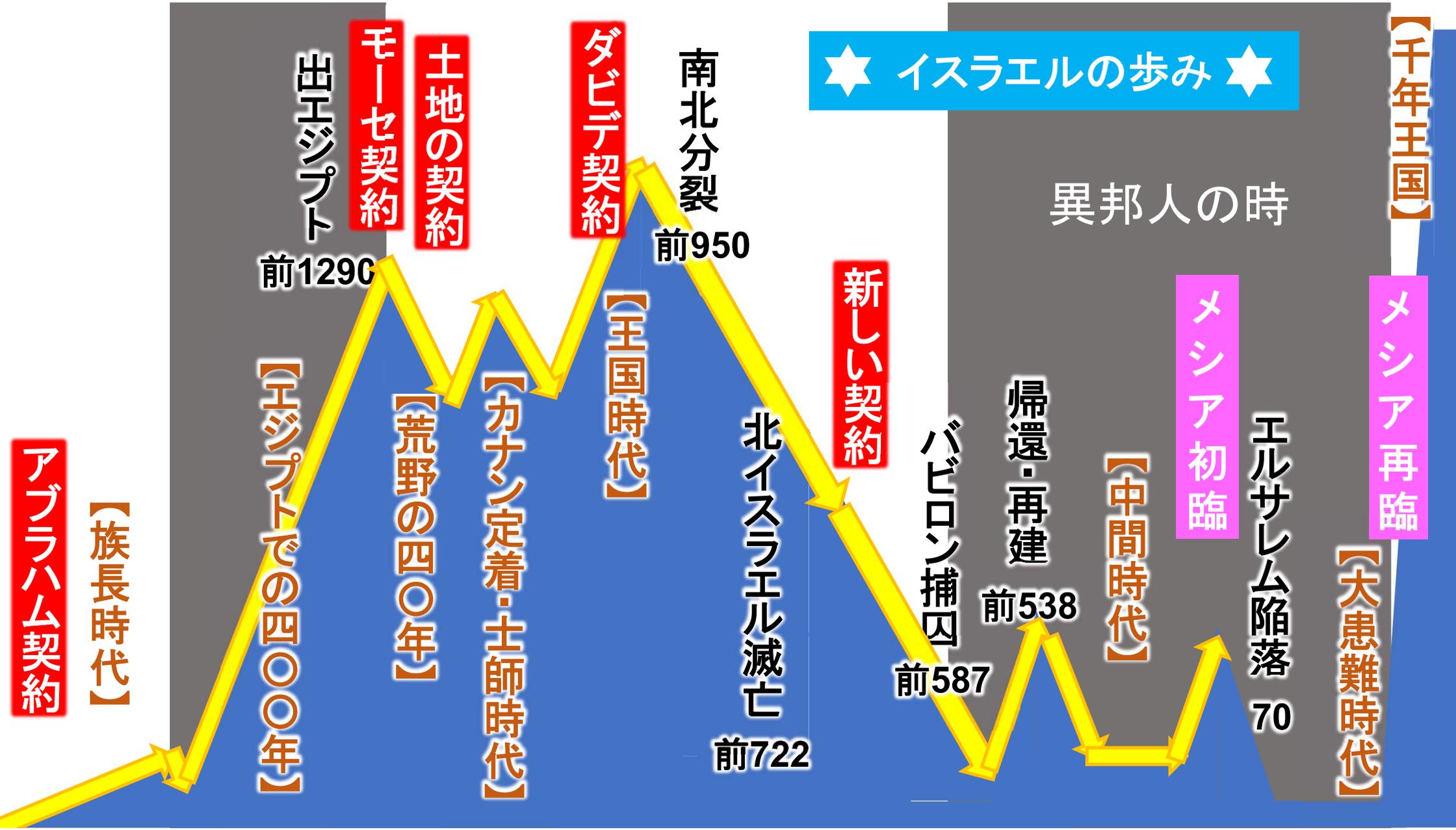
過去

現在

未来



★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

前1290

出エジプト

モーセ契約

【荒野の四〇〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

前587

バビロン捕囚

前538

帰還・再建

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落

70

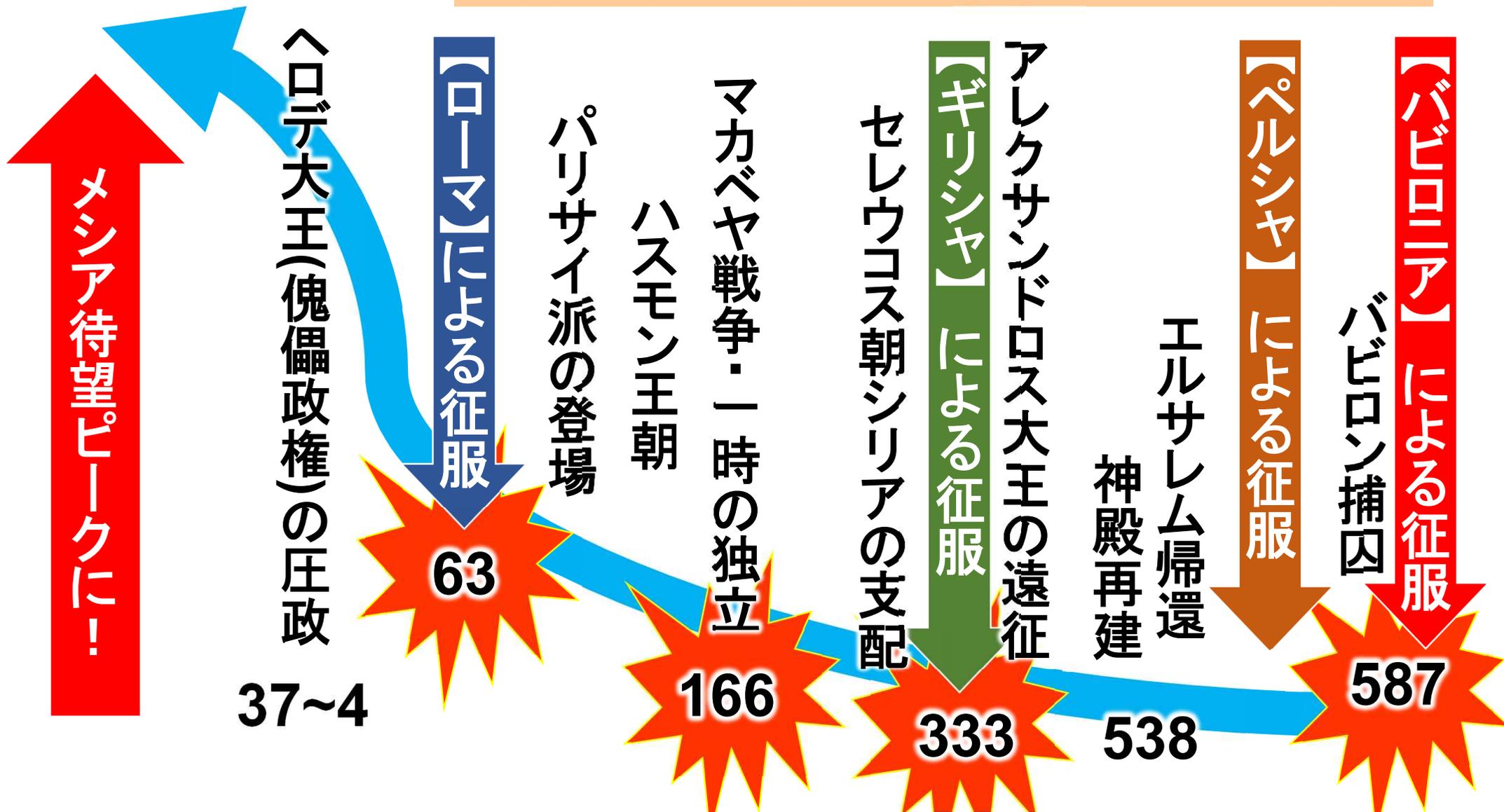
【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

中間時代に続いた、イスラエルの苦難



【パリサイ派の登場】

律法学者たちは、二度と律法を破ることがないようにと、
律法の周りに、予防の垣根を張り巡らし始めた。(→「口伝律法」)
(長老たちの言い伝え)

口伝律法が人々の重荷に!!



律法

垣根(口伝律法)

さらに教師たちは、「口伝律法」には、律法と同じ権威があると主張するようになった。 →パリサイ人(派)の誕生

2千年前、待望のメシアは、
数々の預言通り、ユダヤの
ベツレヘムで、乙女マリアより、
家畜小屋で誕生した。

30年後、イエスは、メシアとして
活動を開始された。
数々の奇跡は、メシアの証拠だった。

メシアを受け入れれば、実現するはず
だった神の国。しかし、イスラエルは、
イエスはメシアではないと拒んでしまう。



「神の国(天の国)」とは？ ...ベルゼブル論争以前

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

⑤千年王国

モーセ～ゼデキヤ

③神政政治の王国

メシア到来と共に!!

【地上における神の国】

「神の国(天の国)」とは？ ...ベルゼブル論争以後

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

⑤千年王国

④奥義としての王国

モーセ～ゼデキヤ
③神政政治の王国

【地上における神の国】

イエスが教えられた「神の国(天の国)」

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

新天新地

⑤千年王国

再臨～審判

④奥義としての王国

≡教会時代

メシアの拒否～メシアの受容

モーセ～ゼデキヤ
③神政政治の王国

【地上における神の国】



【メシア拒否 ⇒ 弟子訓練へ】

イスラエル
(指導者)



洗礼・バプテスマ

荒野の誘惑

弟子の召命

ガリラヤ伝道開始

メシア的奇跡

安息日(律法解釈)論争

① 観察

② 審問

③ 審判

ベルゼブル論争

たとえ話

五千人の食事

ペトロの信仰告白

山上の変容

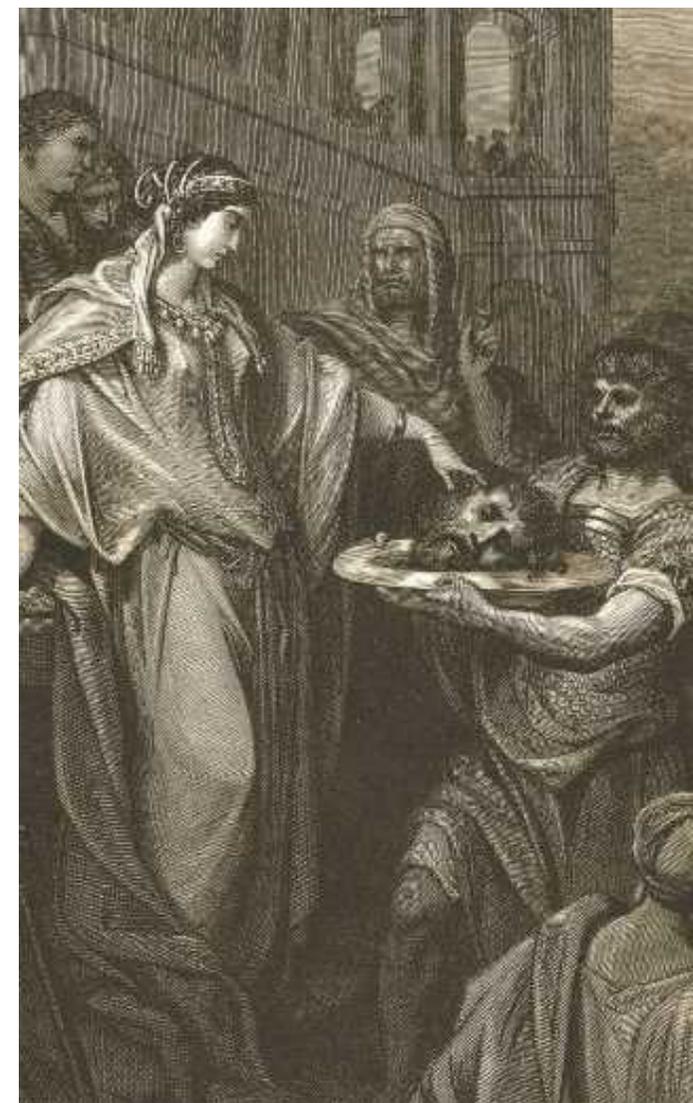
エルサレム入城

最後の晚餐



紀元70年
エルサレム陥落

【メシアの生涯に、つきまとしてきた、死の影】

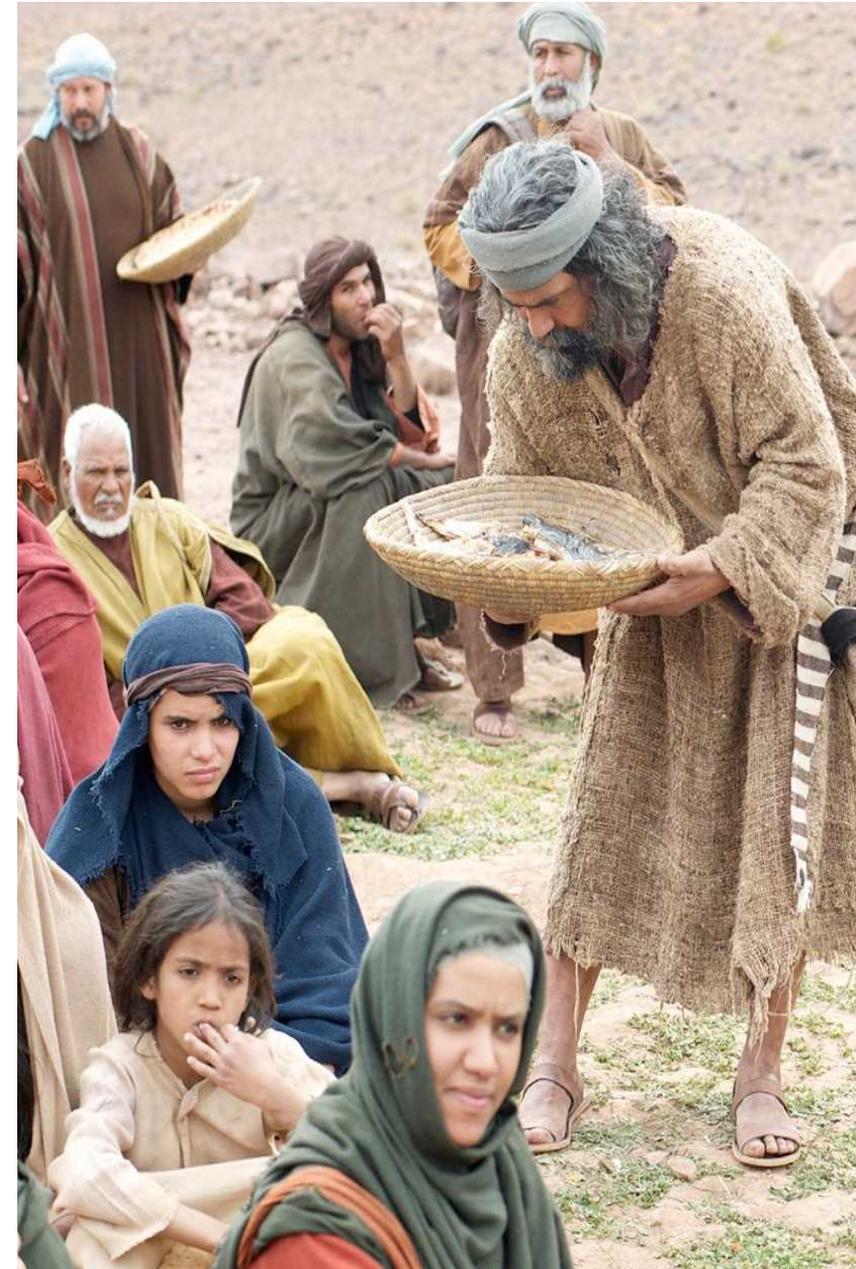


I. ペテロの信仰告白



【5千人の食事】 マルコ6:30～他

- ガリラヤ湖畔で、5つのパンと2匹の魚で5千人が満たされる奇跡が起こった。
- 来たるべき神の国でのメシアとの食卓を思い起こさせるものであり、教会時代の教会の姿を示す奇跡だった。
- 奇跡の意味を理解しない人々は、イエスを王に担ぎ上げようとした。
- イスラエル指導者たちは、イエスを殺す機会をうかがっていた。



【イエスの質問】 マタイ16:13～16

■ ガリラヤ地方を離れたイエスは、ピリポ・カイザリヤで、弟子たちに質問された。

「人々は人の子をだれだと言っていますか」

■ バプテスマのヨハネ、エリヤ、エレミヤ預言者のひとり…。各々に答えた弟子たちに、イエスは、再度質問された。

「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか」

■ シモン・ペテロが答えて言った。

「**あなたは、生ける神の御子キリストです**」

■ イエスは、メシアであり、神の子である。
これが、歴史的信仰告白となった。



【ピリポ・カイザリア】
バニアス(パンの神の町)
偶像礼拝・皇帝崇拝の町

【メシアの上に立つ教会】 マタイ16:18

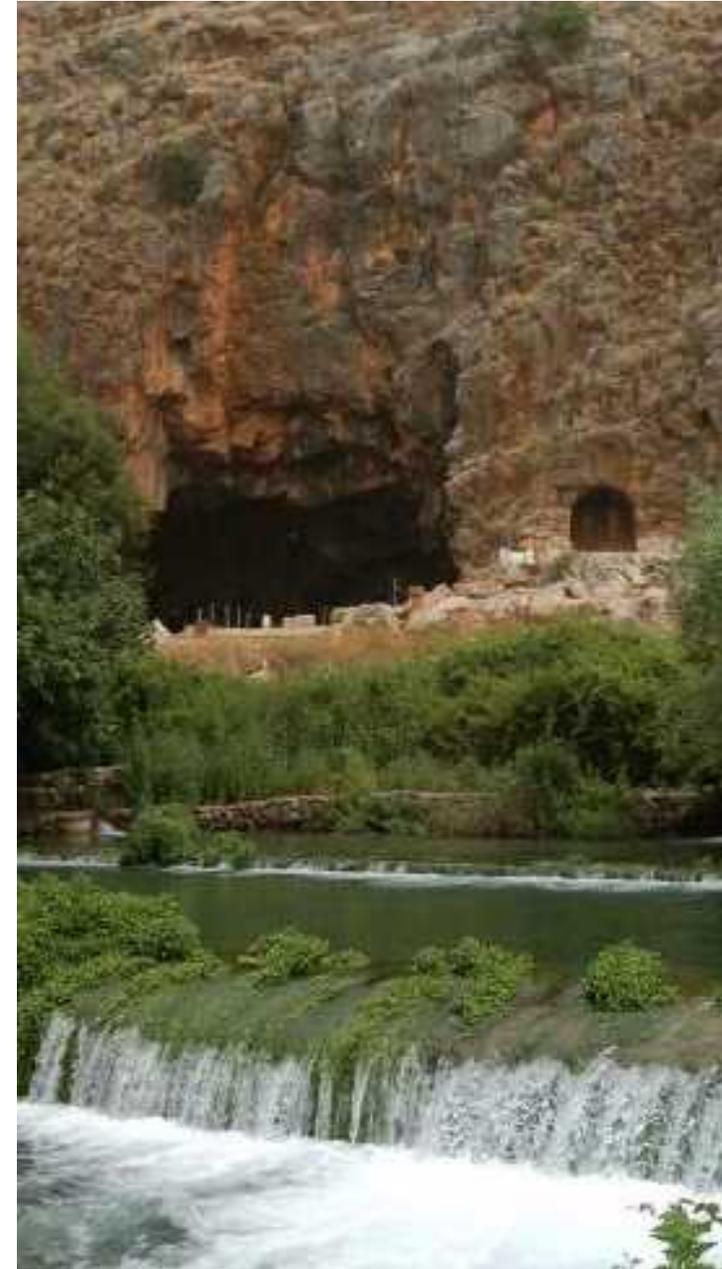
ではわたしもあなたに言います。

あなたはペテロ*です。わたしはこの岩*の上
にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。

* ペテロ(ペトロス) = 石、小さな岩

* 岩(ペトラ) = 岩盤

■ メシアを信じる信仰という岩盤の上に
教会(信者の会衆)が建てられる!!



【最初の受難の予告】 マタイ16:21

その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。

- ペテロの歴史的信仰告白の直後の予告。
しかし、弟子たちは、誰も理解しなかった。
- ペテロは、イエスをいさめようとさえし、「さがれ、サタン」と、厳しく叱責された。
- メシアの十字架を拒否する者は、サタンの業に加わっている。



Ⅱ. 山上の変貌



【ヘルモン山へ】 マタイ17:1~

■ 信仰告白の六日後、イエスは、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの3人を連れ、イスラエルの最高峰ヘルモン山に登られた。

「17:2 そして彼らの目の前で、御姿が変わり、御顔は太陽のように輝き、御衣は光のように白くなった。17:3 しかも、モーセとエリヤが現れてイエスと話し合っているではないか。」

■ 主の栄光(シャカイナグローリー)を発する、イエスの真の姿。公生涯で一度きり。



【ペテロの誤解】 マタイ17:4

すると、ペテロが口出ししてイエスに言った。「先生。私たちがここにいることは、すばらしいことです。もし、およろしければ、私が、ここに三つの幕屋*を造ります。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。」

* 幕屋 ➡ 仮庵(仮小屋)と訳するのが正確

■ ペテロは、メシアの来臨を現す仮庵祭を再現しようとした

■ だが、まだその時ではない。

■ メシアは、栄光の姿で来られる前に、十字架の受難を経なければならない。



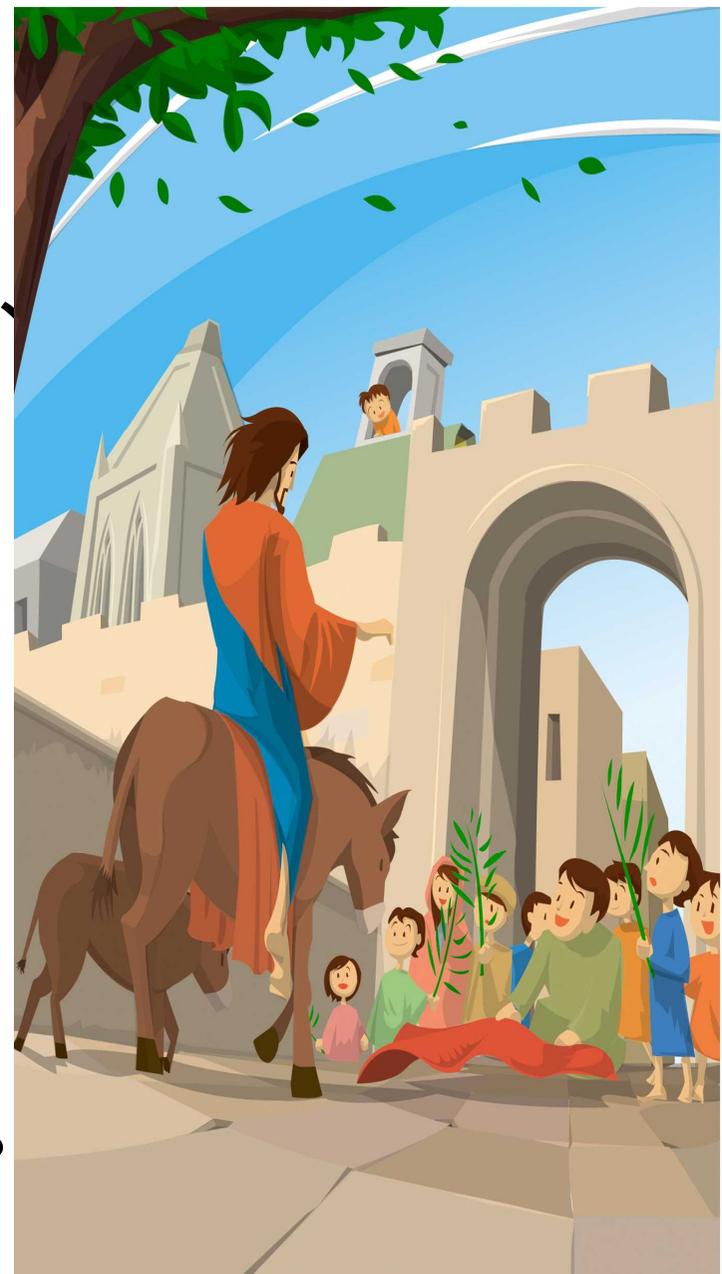


Ⅲ. エルサレム入城

最後の晩餐・逮捕・裁判

【エルサレム入城】 ルカ19:36～37

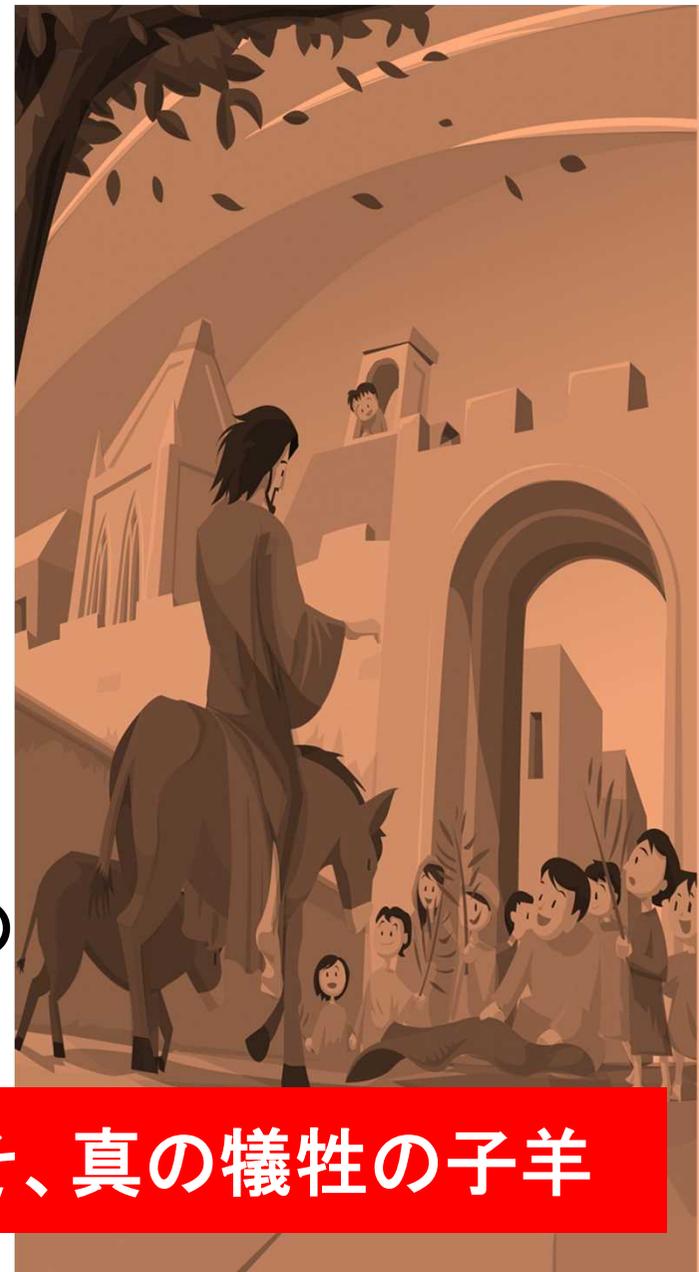
- 過越祭の直前、ロバに乗ってエルサレムに入城したイエス。預言されたメシアを示す姿に、人々は、喜び、賛美した。
- イエスは、都を見て涙した。その目に映っていたのは、40年後のエルサレム陥落だった。
- メシアを拒んだイスラエルは裁きを免れない。
- メシアは、栄光の王として来られる前に、受難の僕として十字架を経なければならない。



【エルサレム入城】 ルカ19:36～

- 受難のメシアは、罪の赦し、神との和解をもたらす、犠牲の子羊として、平和の王として、ろばに乗って来られた。
(※再臨の主は、裁き主として馬に乗って来る)
- この日は、過越祭に祭司が献げるための、犠牲の子羊がより分けられる日だった。
- 傷もしみもないか、子羊が吟味される期間、メシアは、神殿で最後の試みを受け、敵対者の論争を、ことごとく退けられた。

まったく罪がないことが明らかに!! イエスこそ、真の犠牲の子羊



メシアの受難と過越祭(種入れぬパンの祭り・除酵祭)

10日(日)	エルサレム入城	犠牲の子羊のより分け
11日(月)	いちじくの呪い 宮きよめ	} 子羊の吟味期間(11~14日)
12日(火)	神殿での最後の論争	
13日(水)・夕	ベタニヤでの油注ぎ	
15日(金)	最後の晚餐 「新しい契約」 告別説教 最後の祈り 逮捕 裁判 十字架刑 午前9時 死 埋葬	過越祭 過越の食事 (過越祭の後の、一週間が、 種入れぬパンの祭り、 除酵祭) 神殿で子羊が屠られる時刻
17日(日)	復活	初穂の祭り

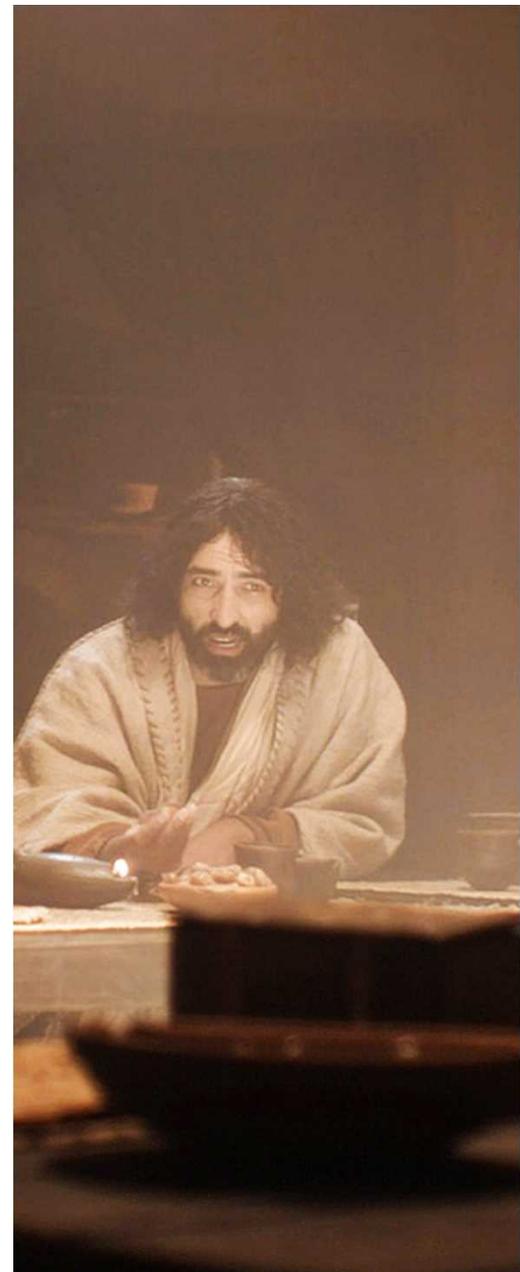
【最後の晩餐で】ヨハネ13章

■ 出エジプトを記念する過越の食事。

主イエスは、僕のように、弟子たちの足を洗い、一人の弟子の裏切りを告げた。

■ 当人のユダだけが、意味を理解し、密告のため去った。パン切れを浸して食べる、エジプトの奴隷労働を覚える儀式の後だった。

ヨハネ13:27～30 彼がパン切れを受けると、そのとき、サタンが彼に入った。そこで、イエスは彼に言われた。「あなたがしようとしていることを、今すぐしなさい」ユダは、パン切れを受けるとすぐ、外に出て行った。すでに夜であった。



【パン裂き】 マルコ14:22

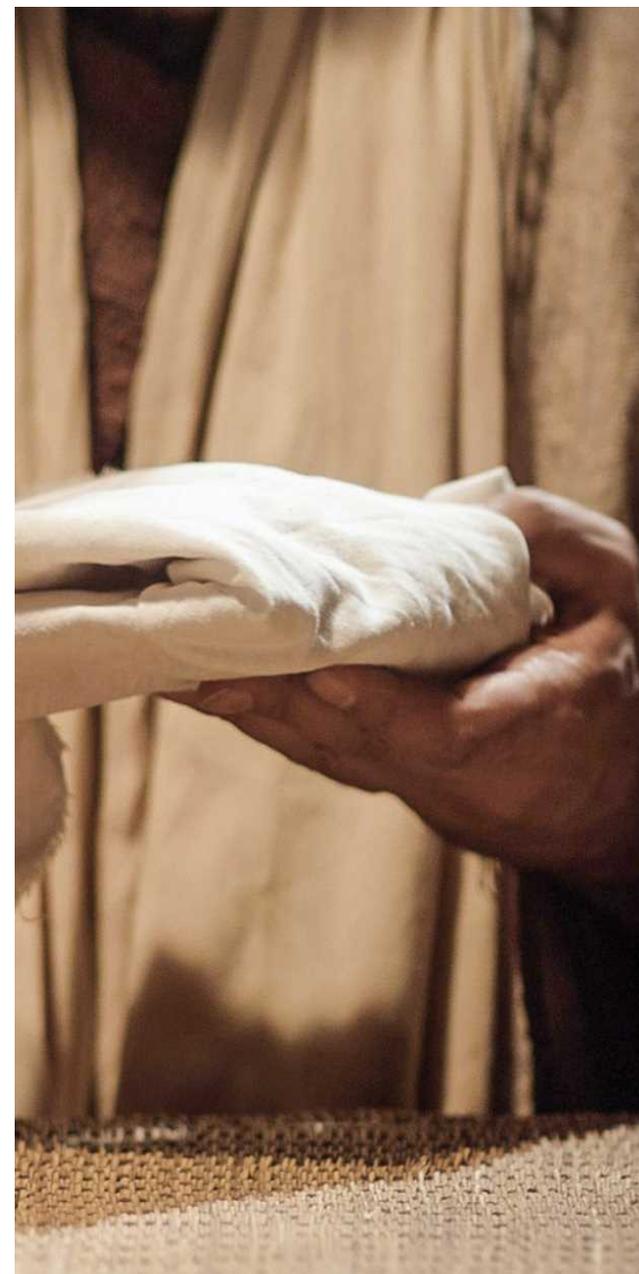
それから、みなが食事をしているとき、イエスはパンを取り*、祝福した後、これを裂き、彼らに与えて言われた。

「**取りなさい。これはわたしのからだです。**」

* アフィコーメンの儀式

...袋に入った3枚の種なしパンの真ん中の1枚を割り、半分を布に包んで隠しておき、食事の後半で、取り出して食べる。

■ **復活のキリスト**をあらわすもの!!



【新しい契約の締結】 マタイ26:27～29

また杯を取り、感謝をささげて後、こう言って彼らにお与えになった。

「みな、この杯から飲みなさい。これはわたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。

ただ、言っておきます。わたしの父の御国で、あなたがたと新しく飲むその日までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」

* エレミヤに約束された、「**新しい契約**」の締結。

■ 明らかにされた、過越祭の本当の意味!!

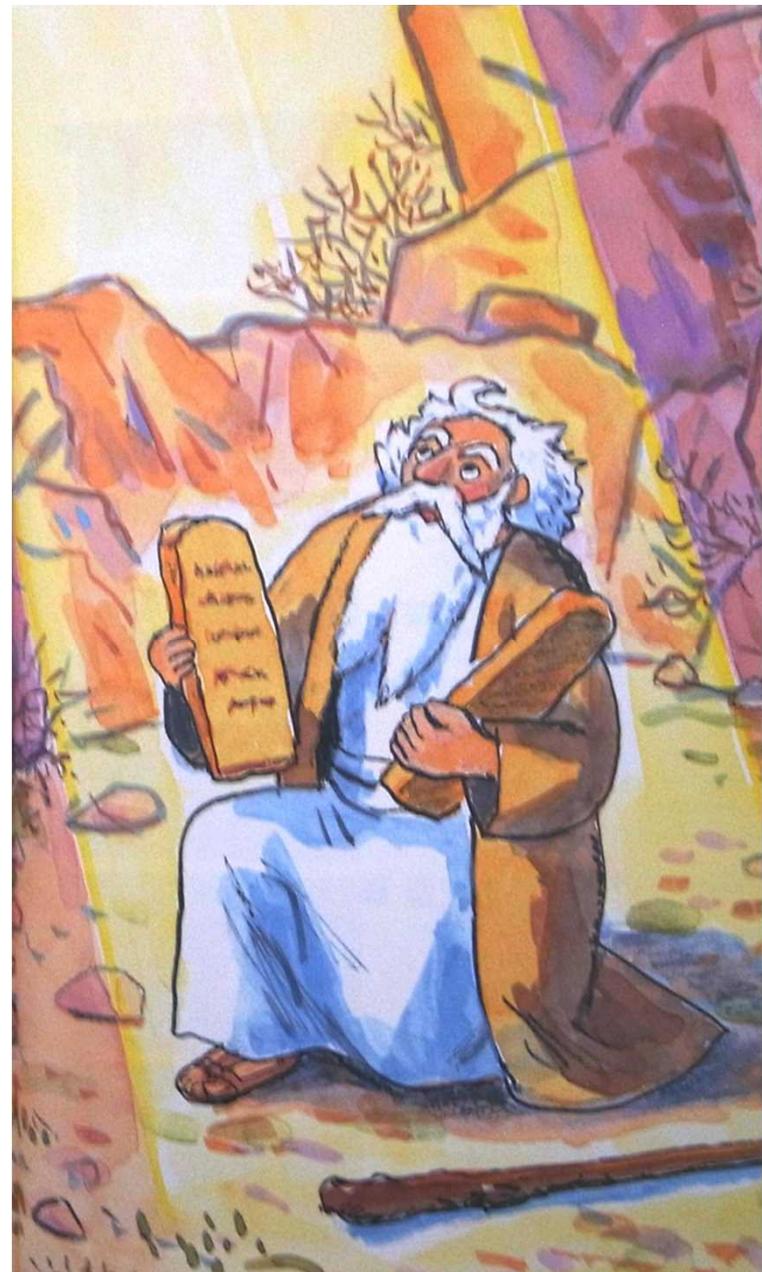
➡メシアの贖いの死と復活を示すもの!!

■ 主イエスの再臨後、真の過越祭が祝われる。



【新しい契約の一番のポイント!!】

- 「モーセ契約(律法)」が突きつけたもの
“罪ある人間には、律法を守る力がない”
- 「新しい契約」は、人間の内側に、
神の法を守る力を与えるという約束!!
- 信じた者の内に住まわれる聖霊が、
神に従う力を与え、人を変えていく!!
- 新しい契約は、エレミヤの時に約束され、
過越祭(最後の晩餐)で締結され、
ペンテコステに施行される!!



【ゲツセマネ(搾り場)の祈り】 ルカ22章

■ イエスは、最後の祈りをオリーブ山で捧げた。
「父よ。みこころならば、この杯*をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。」

* 杯 ➡ “神の怒りの杯” エレミヤ25:15他

■ 十字架の死と復活は、すでに明らか。

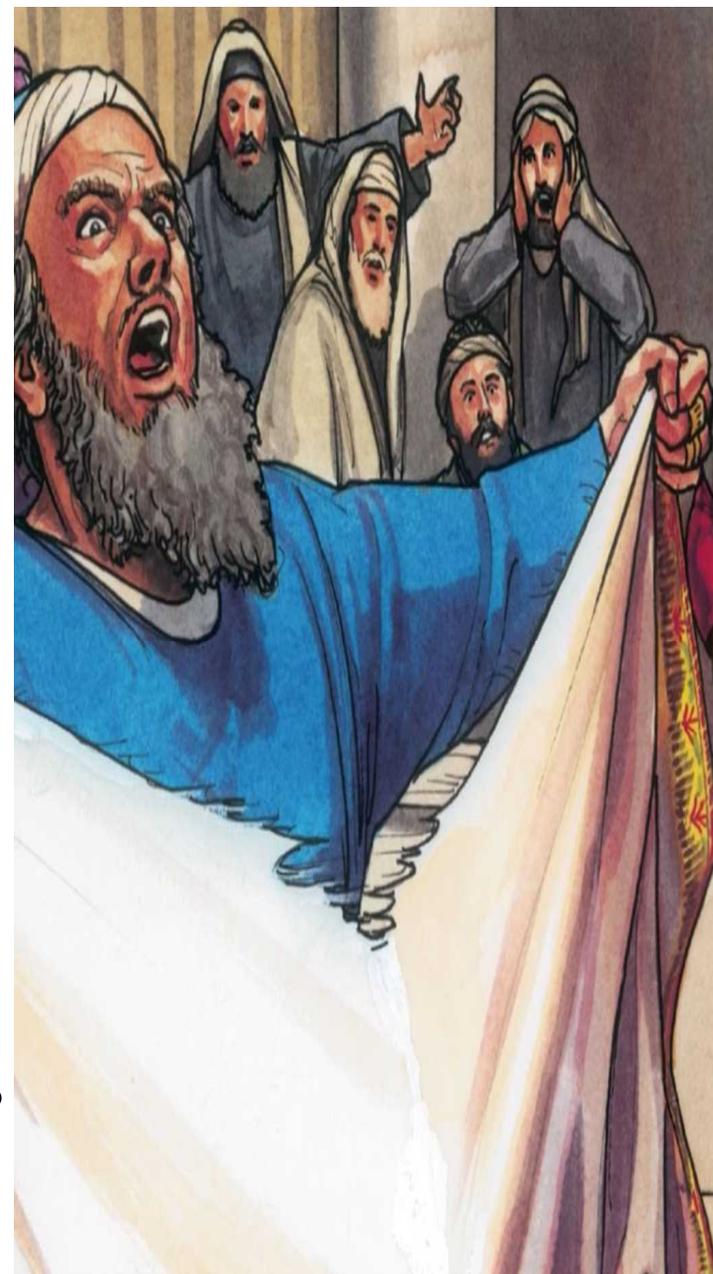
ここでイエスに示されたのは、その真の意味。

■ 御子が、御父である神から完全に断絶される。
父に完全に見捨てられ、究極の死を経ることが明らかにされた。 ➡ 十字架の最大の苦しみ。



【ユダヤ議会の宗教裁判】 マタ 26章

- ユダの裏切りで捕らえられたイエスは、大祭司カヤパの私邸で、宗教裁判を受けた。
- 証人のユダは、行方不明。大混乱の中、大祭司から、「おまえはメシアなのか」と、神の名によって返答を求められ、イエスは答えた。「あなたが言ったとおりです。しかし、わたしはあなたがたに言います。あなたがたは今から後に、人の子が力ある方の右の座に着き、そして天の雲とともに来るのを見ることになります。」
- イエスの明確な神性宣言に、大祭司は激怒した。**神への冒瀆罪**により、死刑が言い渡された。



【ローマ総督ピラトの下へ】 ルカ23:1~5

- ユダヤ議会に死刑執行権はなかったため、イエスは、ローマ総督ピラトに突き出された。
- イエスの無罪が分かっていたピラトは、責任を逃れようと、領主ヘロデに裁かせようとしたが、黙秘を貫くイエスを裁くことはできなかった。



- 「十字架につけろ」と騒ぎ立てる群衆の前に、ピラトは、責任を群衆に押しつけた上で、十字架刑を宣言した。
- ひたすら保身に走ったピラトは、イエスの語る真実に耳を傾けることはなかった。



The image shows three wooden crucifixes standing on a dark, silhouetted hillside. The sky is a deep blue with wispy clouds, and a bright orange and yellow glow from the setting or rising sun is visible at the horizon, creating a dramatic silhouette effect on the crosses. The text 'IV. 十字架・葬り・復活' is overlaid in white with a black outline at the bottom left of the image.

IV. 十字架・葬り・復活

【十字架上の叫び】 ルカ23:34

■ 人々の嘲りと罵りの中、イエスは、市中を引き回され、十字架につけられた。

■ 十字架上で、主イエスは叫ばれた。

「父よ。彼らをお赦してください。

彼らは、何をしているのか自分

でわからないのです。ルカ 23:34 」

■ 隣で十字架にかけられていた囚人は、イエスをメシアと信じて救われた。

「あなたはきょう、

わたしとともにパラダイスにいます。」



【全地を覆った暗闇】 マルコ15:33

■ 正午から午後3時まで、全地は暗闇に包まれた。

【午前9～12時】 ⇒メシアは、人の怒りを受けた。

【12時～午後3時】 ⇒メシアは、神の怒りを受けた。

■ 午後三時、イエスは大声で叫んだ。「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」

➡詩篇22:1の引用。メシアの受難の預言。

イエスは、愛する父を、この時だけ「神」と呼んだ。

■ 神の怒りの杯を飲み干し、神の呪いを受けて、父なる神から断絶された、イエスの姿だった。



【十字架の最後の叫び】 マルコ15:37

それから、イエスは**大声をあげて息を引き取られた。**

■ヨハネ19:30

「**完了した**」 = テテレスタイ

...**負債の支払いの完了**を示す言葉。

人類の罪は、あがなわれた。

■ルカ23:46

「**父よ。わが霊を御手にゆだねます**」

...成し遂げられ、回復された父との関係

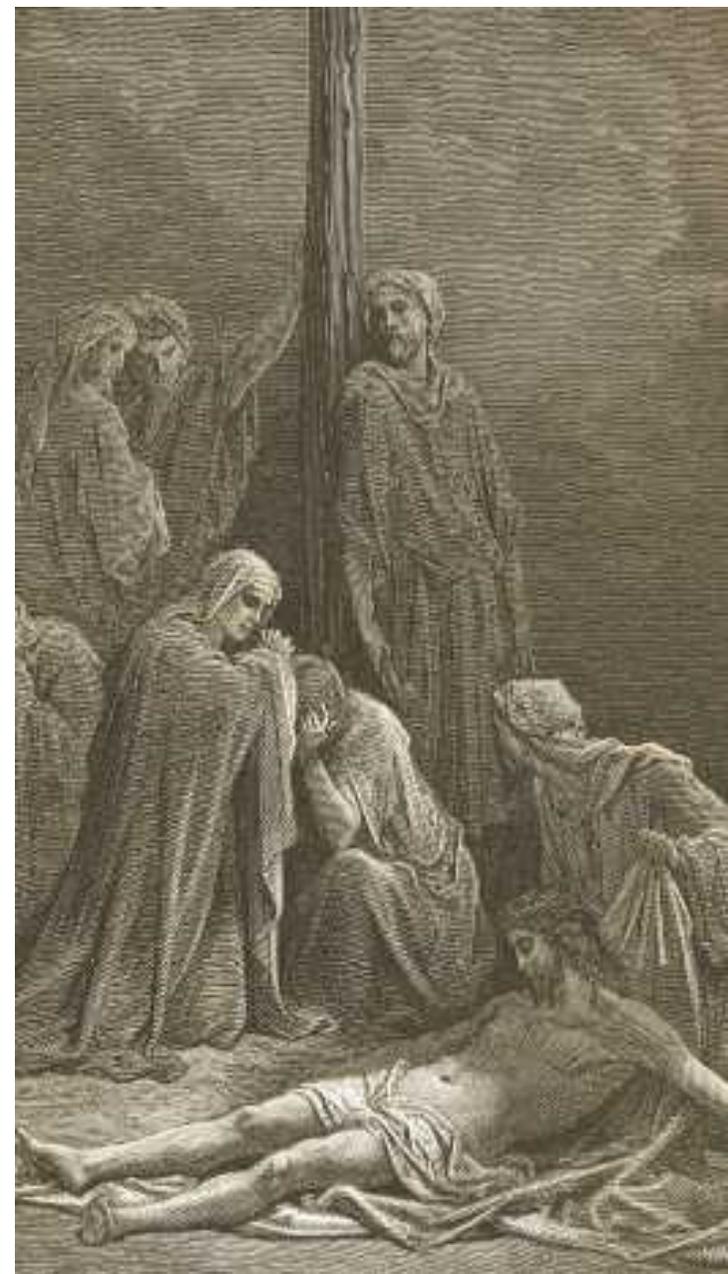
こう言って、頭を垂れて、息を引き取った。

イエスは自ら、命を父に渡された。



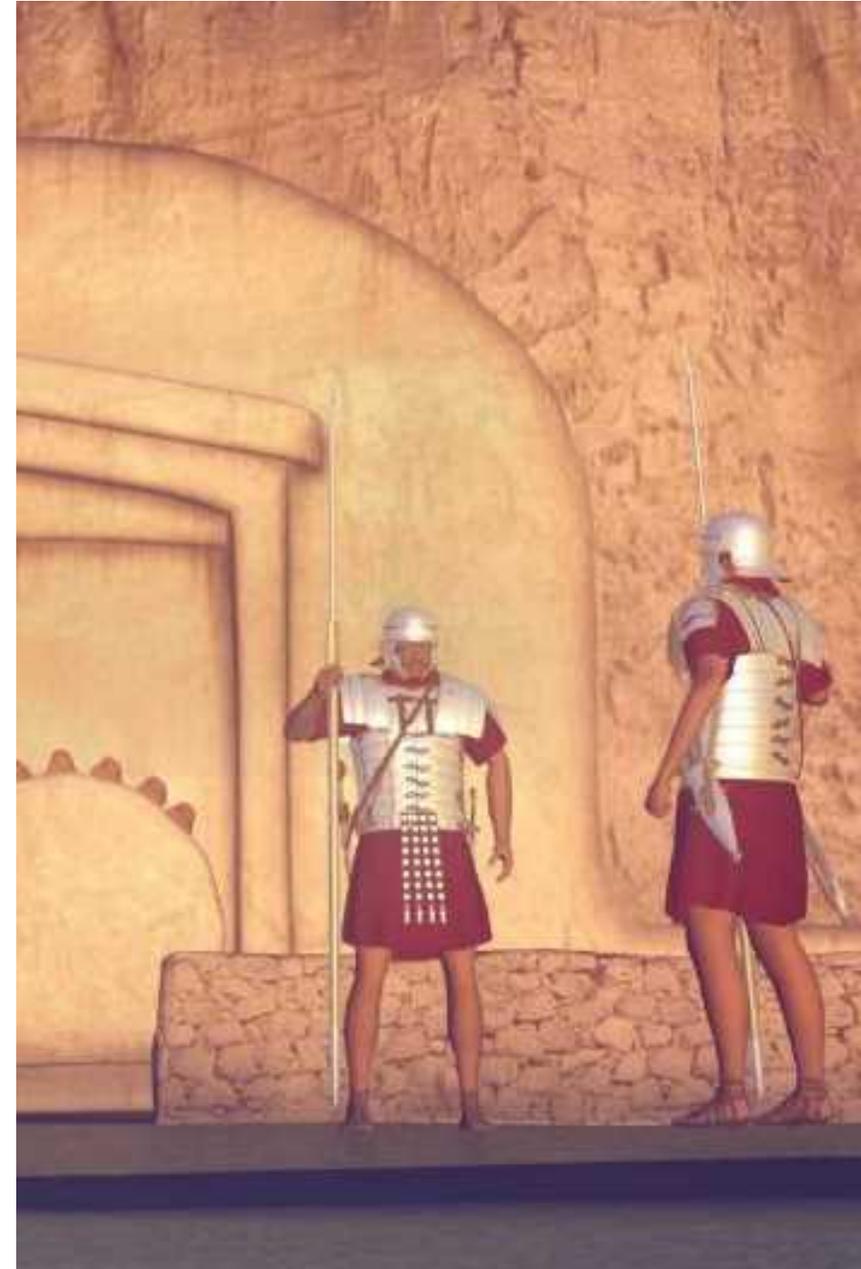
【イエスの埋葬】 マルコ15:43

- アリマタヤの議員ヨセフが、恩赦を願い出、イエスの遺体の埋葬の許可を得た。
- 神学校の校長だったニコデモも名乗り出、二人の弟子によって、イエスの遺体は墓に葬られた。
- イエスの葬りは、完全に死んだことを示す。メシアが受けた、辱めの極みだった。
- イエスの埋葬も、預言通りに成就した。
「彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかったが。イザヤ 53:9」



【墓の見張り】 マタイ27:62～66

- 弟子たちも忘れていた復活の予告を敵対する者たちが覚えていた!!
- 弟子たちが、イエスの遺体を盗んで、復活したと言い出さないように、墓は、ユダヤ議会の依頼を受けたローマ兵の命がけの任務により、厳重に監視された。

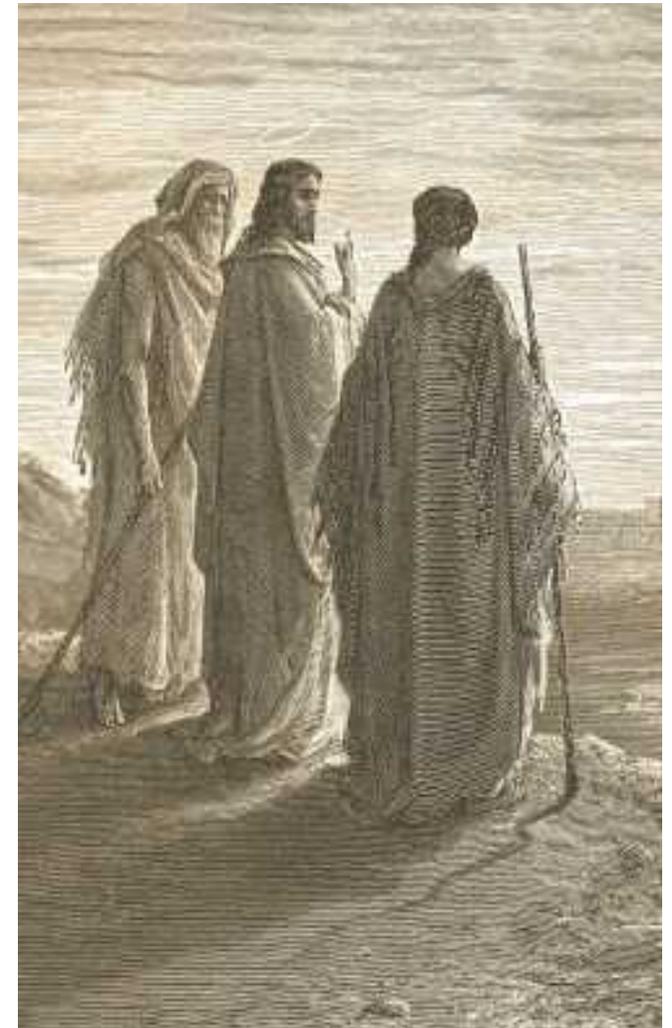


【揺り動かされる墓】 マタ28章

- 安息日が開けた、三日目の朝。地震が起こり、天使が現れて、墓の石を転がして開けた。
- 命からがら逃げ出した兵士たちは、祭司長たちと共謀し、イエスの遺体が盗まれたたとデマを流した。
- そこに、女たちがやってきた。イエスの遺体を手厚く葬り直そうと考えたのだった。
- しかし、墓は空だった。女たちの報告を聞いて、ペテロがヨハネともにやってきて、「見て、信じた」。



...その後、復活のメシアは、次々と、弟子たちの前に現れた
【マグダラのマリア】 【女たち】 【二人の弟子】



【10人の弟子たちに現れる】ヨハネ20:19～21

20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方のことであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。

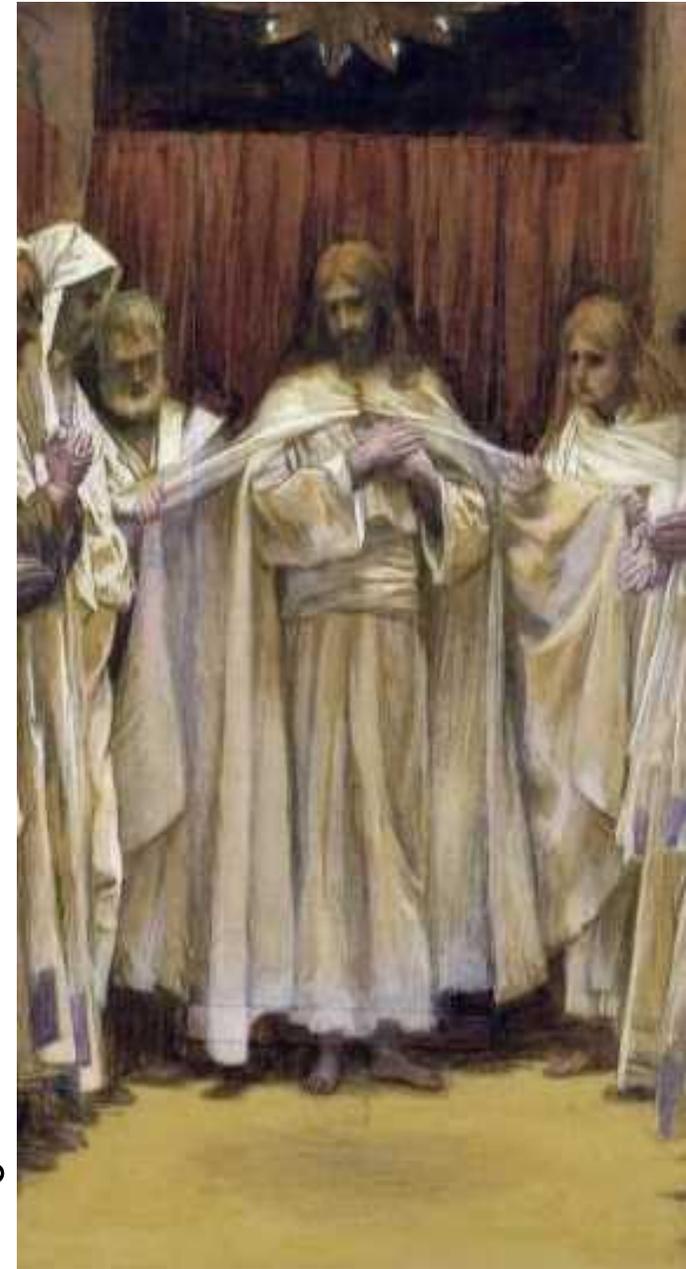
「平安があなたがたにあるように。」

20:20 こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。

20:21 イエスはもう一度、彼らに言われた。

「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします」

- 密室に突如現れた、復活のイエスは、弟子たちの神との和解を宣言し、派遣を命じた。



【トマスに現れる】 ヨハネ20:26～29

■ 一人居合わせなかったトマスは、「釘後を見、この指を入れなければ」と言って、信じなかった。

■ 八日目、再び復活のイエスが現れ、言っていたとおりにするよう、トマスを促した。

「トマスは答えてイエスに言った。

『私の主。私の神。』 ヨハネ20:28」

* イエスは、「主(ヤハウエ)・神」とであるという告白。



イエスは、メシアであり、神である。ペテロが信仰告白したことを、弟子たちは、復活のイエスと出会い、身を持って知った。

IV. まとめと適用

十字架が突きつける
二つの道



【イエスに注がれた二つの怒り】

■ 午前9時～12時 十字架の前半の3時間

- ・イエスは、人々に罵られ、祭司長、律法学者に嘲られた。

メシアは、人類の怒りを受けた。

■ 正午～午後3時 十字架の後半の3時間

- ・全地を暗闇が覆い、「わが神」とイエスは叫ばれた。

メシアは、神の怒りを受けた。

【二人の罪人が示した、二つの道】 ルカ23:34~43

■ イエスの十字架上の最初の言葉

「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分で分からないのです。 ルカ23:34」

■ 共に十字架につけられた二人の罪人。

一人は、イエスをあざけり、一人はそれをたしなめた。

「おまえは神をも恐れぬのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。われわれは、自分のしたことの報いを受けているからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。 ルカ23:40~41」

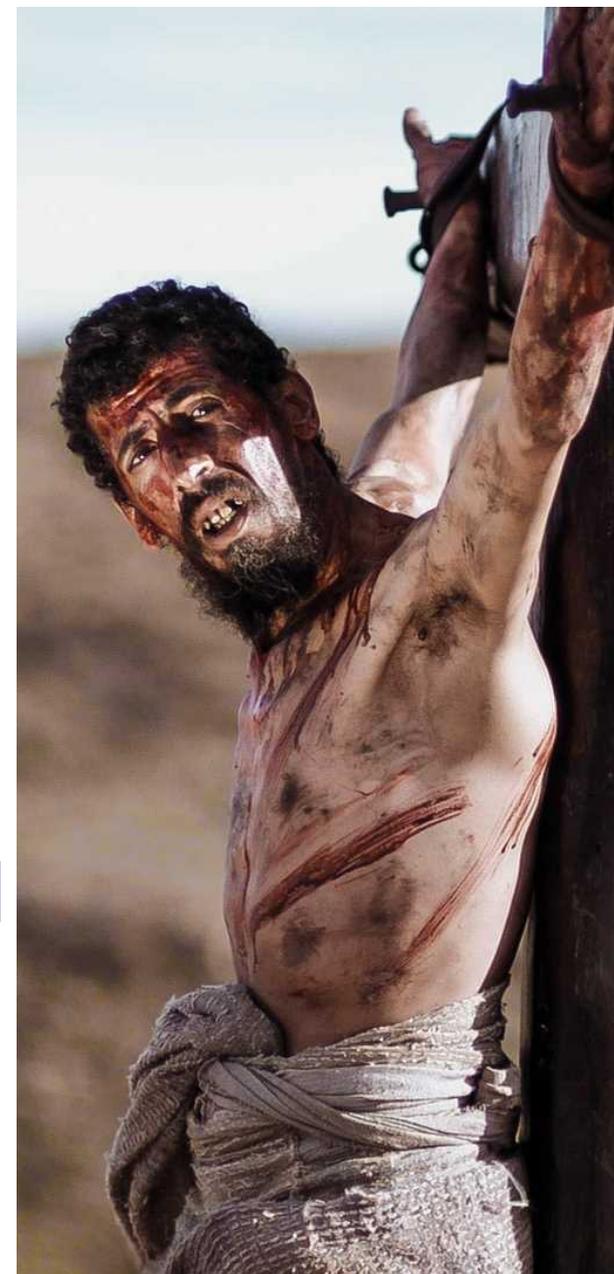
【二人の罪人が示した、二つの道】

■ 悔い改めた罪人のイエスへの呼びかけ

「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときは、私を思い出してください。」

■ イエスの罪人への答え ルカ23:43

「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」



【一人の罪人が信じたこと】

- ①自分は、罰せられて当然の罪人である。
- ②イエスには、罪がない。
- ③イエスは、自分を救うことができる。
- ④イエスは、必ず、王になる。

■一人の罪人は、イエスこそ、メシアであり、
イスラエルの罪をあがない、
やがて、必ず王の王になられる方だと信じた。

■そして、ただ信仰と恵みによって、救われた。

【十字架が、すべての人に突きつけていること】

①異邦人もユダヤ人も、人類は、メシアを拒んだ。

メシアは、人の怒りを受けられた。

②人類の受けるべき神の怒りをも、メシアが受けられた。

■わたしが、あなたが、受けるべきだった神の怒りを、
メシアである主イエスが、その身にすべて受けられた。

■このことを 信じて、救われるか。

拒んで、滅びにいたるか。

示された道は、二つに一つ。

【今、私たちが信じるべきこと】

■大前提：自分は、罰せられて当然の罪人である。

- ①私の罪のため、罪のないイエスが十字架にかけられた。
- ②イエスは、辱めを受け、完全に死んで、葬られた。
- ③イエスは、死を打ち破って復活された。

■イエスは、今も生きておられ、
私のために、大祭司としてとりなしてくださる。

■この福音を理解し、内容に同意し、主イエスを、まさにこのような方として、個人的に信頼するなら、その瞬間、信じた者は、永遠の滅びから、永遠の救いに入れられる。

「天のお父さま。

わたしが のみほすべき、いかりの杯(さかずき)を、
主イエスが、すべて のみほしてくださいました。

わたしの罪(つみ)を、ゆるしてください。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」